

■酒井七馬 漫画家。戦後ストーリー・マンガの嚆矢「新寶島」の原作構成も、作画に起用した手塚治虫の影に消えた。

さかいしちま
日露戦争終 1905＝ 大阪市南区大宝寺町で、祖父の代からの紙問屋酒井彌三郎の子に生まれる。本名弥之助。

伊藤博文暗殺 1909＝ 4歳：母マキが死去。続いて、書道家としても知られた祖父が死去。のち、祖父の号七馬を用いる。大火「天満焼け」に見舞われ、一家で、南区東清水町に引っ越す。

明治天皇没 1912＝ 7歳：この年、大火「ナンバ焼け」もあって、

第一次大戦始 1914＝ 9歳：この年、焼け跡に、楽天地がオープン。

ロシア革命 1917＝12歳：この年、日本で最初のアニメとといわれる下川凹天の「芋川棕三玄関番の巻」がつくられる。

本格政党内閣 1918＝13歳：旧制中学(おそらく高津中学)に入学か。
家業が、第一次大戦後の恐慌に巻き込まれたのか、

大暴落・・・ 1920＝15歳：旧制中学を中退。結婚して独立した兄誠二が日光社大辺弘(大河内伝次郎の兄)の土地管理を任される。

原敬首相暗殺 1921＝16歳：コック見習い・麻雀店の代打ちなどのアルバイトをしながら、マンガを描き始める。

関東大震災 1923＝18歳：マンガを持ち込んだのが縁で、輝文館{大阪バック}編集部に出入りするようになり、知合った小寺鳩甫に師事して日本画・マンガを学ぶ。

治安維持法 1925＝20歳：小寺鳩甫が{大阪バック}主筆になる。この年、大河内伝次郎が映画デビュー。

金融恐慌・・・ 1927＝22歳：この頃、中座の芝居絵描きなどをする。この年、光社大辺弘が出版社(騒人社)を設立し、中崎町に工人荘アパートを建設。その敷地に兄誠二が印刷工場を開設し、父彌三郎が工人荘の管理人を任される。

世界恐慌・・・ 1929＝24歳：{大阪新聞}の囑託になり、漫画記者として働く。

海軍軍縮条約 1930＝25歳：この年、政岡憲三の処女作「難船ス物語第一編猿ヶ島」がつくられる。

満州事変・・・ 1931＝26歳：この年、田河水泡「のらくろ二等兵」が連載開始、鈴木一郎作の紙芝居「黄金バット」が大ヒット。

五一五事件 1932＝27歳：この年、小寺鳩甫「赤ちゃん物語」刊行。

国際連盟脱退 1933＝28歳：この年、兄誠二が上海毎日新聞印刷工場へ赴任。

帝人疑獄事件 1934＝29歳：この年、兄誠二が上海で客死。大河内伝次郎の紹介で日活京都漫画部に作画担当で入社し、田中与志監督「忍術火の玉小僧江戸の巻」の作画を担当。動くマンガにのめり込む。

芥川直木賞始 1935＝30歳：続けて「山賊退治の巻」「海賊退治の巻」の作画を担当するが、漫画部解散のために日活を退社。

二二六事件 1936＝31歳：この年、小寺鳩甫が{大阪バック}を退社し、藤原せいけんが主筆となる。

日中戦争始 1937＝32歳：{大阪バック}の編集を手伝う。

健保+総動員 1938＝33歳：この年、杉浦幸雄の「銃後のハナ子さん」連載開始。

第二次大戦始 1939＝34歳：発案した植田進午に頼まれ、慰問袋用マンガの小冊子を次々書いて大ヒット、類書も出るほどになり、

大政翼賛会 1940＝35歳：この年、兄誠二の遺族が工人荘に同居。本家本元として「漫画報国ハリキル銃後」刊行。

日米開戦・・・ 1941＝36歳：アニメ作家の嚆矢政岡憲三が主宰する{日本映画科学研究所}に入社し、
熊川正雄と「躍るエンジン」を製作後、「海の小勇士」「空の慰問隊」を原作・作画・監督。日本漫画奉公会(会長・北沢楽天)が結成され、関西支部代表になる。

・・・ 1942＝37歳：父が死去。戦時統制で{日本映画科学研究所}が消滅し、またもアニメから離れる。

創価学会検挙 1943＝38歳：父が死去。戦時統制で{日本映画科学研究所}が消滅し、またもアニメから離れる。

年金+総武装 1944＝39歳：兄訓社から絵本「ドウブツ」を刊行。

敗戦・・・ 1945＝40歳：大阪大空襲で工人荘が焼失し、人見静一郎宅に身を寄せる。敗戦後は、進駐軍兵士らの似顔絵を描いて好評を得るとともに、アメリカ漫画を知る。大坂ときをの頼みで「タコの行水」を執筆し、

新憲法公布 1946＝41歳：この年、「サザエさん」連載開始。*単行本「タコの行水」刊行しヒット。大坂ときをと関西マンガマンクラブ結成し{まんがマン}創刊、その紹介で、この年デビューした手塚治虫を知り、合作の打ち合わせ。絵本「子豚ノブちゃん」を刊行。桃谷の河井恒雄所有地に完成した自宅兼アトリエに引越す。日本民主教化連盟の依頼で編集人を務めた{漫画民主ニッポン}と{ハロー・マンガ}創刊。単行本「コネコのミイちゃん」刊行。
*大阪府下の養護施設慰問活動を始める。紆余曲折の末、手塚治虫との合作単行本「新寶島」刊行し、大ヒット。小寺鳩甫・大坂ときをらと単行本「マンガビックリ箱」を刊行。手塚治虫から「怪ロボット」原稿が絶交宣言とともに届けられる。単行本2冊・絵本1冊を刊行。手塚治虫らと関西児童漫画協会(童画会)を結成。

極東裁判決 1948＝43歳：この年、関西は空前の赤本マンガブームに沸く。酒井版「怪ロボット」を刊行。{真珠}に「ぐるてすく・まんが」以後、続々掲載。{学友5年生}に「MEITANTEI」掲載。童画会のイベントで手塚治虫らとあやめ池遊園でマンガショーに出演し、演出も担当。単行本も代表作「正義の拳銃」ほか8冊続々刊行。鷺里ましろ作・酒井七馬画「海底の冒険児」を刊行。橋本純二著「新小国民読本」・小川滋子著「びよんとと白すけ」の挿絵を描く。

三大事件・・・ 1949＝44歳：絵物語など単行本刊行続くなか、{冒険紙芝居}の表紙絵を担当。{読物と漫画}に「ぐるてすく・まんが」を発表。関西児童漫画協会編{漫画空想天国}に「魔人境」掲載、橋本・小川共著「まちがった答」の挿絵担当。

朝鮮戦争始 1950＝45歳：この年、赤本ブームが急速に終息。{冒険紙芝居}に作品。大阪の紙芝居絵元{三邑会}で、左久良五郎のペンネームで紙芝居を描き始める。職場文化連盟の啓発ポスターを描き始める。

独立回復・・・ 1951＝46歳：「正義の一弾」「海底光線」など再刊される。

マーデー事件 1952＝47歳：この年、手塚治虫の「鉄腕アトム」連載開始。

テレビ放送始 1953＝48歳：*紙芝居「鞍馬小天狗」がヒット。{三邑会}が創刊した{漫画と絵物語新聞}に絵物語「突進キッド」を連載。養護施設慰問活動はこの年まで続けた。

自衛隊発足 1954＝49歳：{大阪日日新聞}に絵物語「鞍馬小天狗」連載開始。一時紙芝居から離れる。鞍馬小天狗もの単行本も刊行。

55年体制始 1955＝50歳：{大和新聞}に多々良凡名義で「すってん君街を行く」を連載。

国連加盟・・・ 1956＝51歳：{大阪日日新聞}で、絵物語「ボタは辨慶」連載開始。秋田實編「蝶々雄二の夫婦善哉」などのカットを描く。

イヌサントーメ 1958＝53歳：最長編となった{大阪日日新聞}の連載が終わり、

美智子妃・・・ 1959＝54歳：紙芝居の仕事を再開する。

安保闘争・・・ 1960＝55歳：紙芝居「少年ローン・レンジャー」がヒット。

全国総合計画 1962＝57歳：紙芝居「鉄人ちびっこ」「恐怖のフランケン」などを描く。

TV宇宙中継始 1963＝58歳：紙芝居「鉄人ちびっこ」「恐怖のフランケン」などを描く。

東京パニック 1964＝59歳：住彦次郎宅でアニメ製作への夢を語る。日本漫画家協会設立に参加。

大学紛争始 1965＝60歳：大阪サンケイホールでの日本漫画家協会大阪支部総会に参加。

いざなぎ景気 1966＝61歳：TVアニメ「オバケのQ太郎」「ロボタン」の絵コンテを描く。{大阪バック}を復刊し、漫文「戯想楼夜話」を連載。翌年につけて、{大阪日日新聞}で、絵物語「歴史は女でつくられる」連載。オープン直後の箕面スパガーデンでのまんがが展に参加。

美濃部都知事 1967＝62歳：西上ハルオの依頼で文進堂「マンガのかき方」「ストーリーマンガのかき方」を監修。

震ヶ関ビル 1968＝63歳：*阪神百貨店で開催された{漫画百年展}に参加し、東京から駆けつけた手塚治虫と再会。西上ハルオと共同でアニメ制作のための{ジュンマンガ・サークル}機関誌創刊準備を始めるが、体の不調を訴えることが多くなり、奈良ドリームランドでのマンガショーに参加し、{ジュンマンガ}創刊後、風邪の症状で寝込み、

全共闘・・・ 1969＝64歳：大阪日赤病院で、没した。

中野晴行「謎のマンガ家・酒井七馬伝」、